

会 議 報 告 書						
会 議 名	令和6年度第2回草津市認知症施策推進会議					
開 催 日 時	令和7年2月5日（水） 14：30～16：00					
開 催 場 所	草津市役所 8階大会議室					
委 員	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
	委 員	金森 雅夫	出席	委 員	竹村 直人	出席
	委員長	宮川 正治	出席	委 員	中村 敏治	出席
	副委員長	中野 悦次	欠席	委 員	原田 節子	出席
	委 員	山口 好則	欠席	委 員	服部 勝義	出席
	委 員	服部 静香	出席	委 員	谷口 岩人	出席
	委 員	北村 眞弓	出席	委 員	谷村 豊彦	出席
	委 員	松永 将孝	欠席	委 員	藤田 喜代美	出席
	委 員	青根 ひかる	出席			
事 務 局	健康福祉部：黒川部長、宮嶋副部長					
	長寿いきがい課：松本課長、田中課長補佐、朝田主任、千鳥保健師					
	介護保険課：木村参事、野邊係長					
そ の 他	傍聴者 2名					

1. 開会および挨拶

＜草津市附属機関運営規則に基づき、本委員会が成立していることを報告＞

＜健康福祉部長から挨拶＞

2. 議事

（1）令和6年度草津市認知症初期集中支援チーム活動状況について

○事務局

＜資料1に基づき説明＞

○委員

事例紹介の中で、Aさんは認知症ではないため、初期集中支援の対象外になったが、精神疾患等で対象外となった場合はどう対応するのか。

○事務局

チーム員会議において、地域包括支援センター等の支援者と共有し、支援者が訪問看護や医療機関の受診につなぐことになる。

○委員長

Aさんの場合は、初期集中支援の対象外になるが、地域包括支援センターは疾患に関わらず継続して関わるができる。訪問看護の導入や医療機関の受診については、地域包括支援センターが支援することになる。

○委員

介入期間が長期化する要因として、本人の受け入れがないことを挙げていたが、本人の同意が得られないまま半年ほど経過してしまうと、症状も進行していくと考えられる。介入期間を長期化させないために、対応策を考えていれば教えてほしい。

○事務局

本人の同意が得られなくても、家族の同意が得られれば介入できる。初期集中の「初期」は、認知症の人や家族がなるべく早く医療や介護を導入できるように、早期に関わるという意味での「初期」である。

○委員長

本人が通院や介護サービスを受け入れないことで長期化していくケースもある。受け入れがない中でも初期集中支援チームが訪問等を行っており、状況が変わると介入の機会が生じることもあるので、そのようなタイミングを逃さずに介入している。

○委員

草津市に認知症の人は何人いるのか。

○事務局

国の将来推計に基づく滋賀県の算定によると、草津市は令和7年で約4,000人と言われている。

○委員

家族から相談を受けることがあるのだが、初期集中支援が終了し、介護サービスにつながった後に、認知症の行動・心理症状が強くなり、介護サービスを拒否するようになった場合でも、初期集中支援の対象になるのか。

○事務局

初期集中支援が終了したら何もしないというわけではなく、終了してから3か月後にモニタリング訪問を行い、困りごとの確認を行っている。

○委員

家族から相談された際に、初期集中支援チームに相談するよう伝えてもよいか。

○委員長

介護サービスを中断している人も初期集中支援の対象である。2回対象となった事例はないように思うが、対象から除外するものではない。

○委員

医療や介護サービスにつながった後に、本人や家族はどう思っているのか。

○事務局

「サービスにつながって良かった」、「デイサービスに通うようになり、気持ちが安定してきた」との声を聞いている。

○委員長

介護負担が減ったかどうかは、介入前と介入後で評価をしている。

○委員

サービスにはつながらなかったが、インフォーマルな支援体制を整えられたことは良かったと思う。資料に記載されている支援者からの声を見ると、チームが関わっていることに安心感を覚えている印象を受けた。支援者が安心感を求めると、チームの介入をやめにくくなるのではないかな。

○事務局

チーム員会議の中で、どこをゴールとして支援をするかについては、地域包括支援センター等の支援者と検討しており、共通認識を持って進めている。介護サービスなどにつながらない形で初期集中支援チームの支援が終了したケースでも、必要に応じて支援者からの相談に応じている。

○委員

本人の拒否があっても、家族が同意していれば介入できるとのことだったが、どのように介入するのか。

○事務局

家族の同意をもらって訪問したり、家族から本人にアプローチしてもらったりして

いる。家族からのアプローチで同意が得られることもある。

○委員長

家族が受診などを勧めても拒否が強い場合でも、初期集中支援チームの看護師が訪問し、本人との関係性をつくった上で受診を勧めると、納得してくれるということもある。介護サービスについても同様のことがあり、納得しやすい働きかけをすることで、医療や介護につながるケースは多い。

○委員

今後どのように取り組んでいくのか。

○委員長

より困難なケースへの対応が見込まれるため、認知症初期集中支援チームとしてサポートを行っていく。

(2) 第4期計画の新規事業について

○事務局

＜資料2に基づき説明＞

○委員

チラシ等に「認知症」とあるが、重度の方も対象になるのか。

○事務局

軽度の方に限った事業ではなく、重度の方の参加をお断りするものではない。認知

症カフェ等では絶対に話さないといけないものではなく、参加いただくことで、本人にとって社会参加の機会となると考えている。

○委員

症状が進行している方は、集いの場に行くと迷惑になるのではないかと感じてしまうと思うので、誰でも参加できることをもっと周知してもよいのではないかな。

○委員

認知症カフェでは、症状が進行している方が来られても対応できる体制を整えている。

○委員

本人が楽しめるのであれば、誰でも参加してもらえたらと思う。家族の相談にのることも可能である。

○委員

本人は話についていけないこともあると思うので、ファシリテーターの存在は重要であると感じる。本人の思いや希望を上手く引き出させるような場があるといいと思う。また、認知症の方への対応について、認知症キャラバン・メイトとして、広く周知をしていきたいと思っている。

○委員

本人ミーティングは今後拡大していくのか。

○事務局

拡大していきたいと考えている。圏域ごとに1か所、本人ミーティングが開催できれば理想的である。

○委員

家族の介護をしているときには、「いつまで続くのであろうか」と考えたり、本人につらくあたってしまったたりすることもあった。介護者同士で話せるような場所があれば良かったと思う。また、家族は本人の前では言いにくいこともあるので、本人ミーティングのように、本人と家族に分かれて話す時間があるのはいいと思う。

○委員長

草津市として介護者家族への取組について紹介してほしい。

○事務局

家族介護教室を実施しており、今年度は4回開催した。各回テーマを設けて専門職による講義を行い、後半でグループに分かれて介護の悩みの共有や相談をする時間を確保した。また、認知症カフェでは、認知症の人と家族の会や認知症キャラバン・メイト等に相談することができる。

○委員長

認知症の人と家族の会の活動についても紹介してほしい。

○委員

認知症の人と家族の会では、月曜日から金曜日の10時から15時に、電話相談を受け付けている。また、なごみの郷で毎月第2月曜日の午後に、家族向けの相談会を

行っている。

○委員

ケアマネジャーが本人に関わったときには、本人の気持ちが聞き出しにくいことがある。本人ミーティング等でお話された内容が地域包括支援センターに共有されていけば、ケアマネジャーも把握することができ、本人の思いを大切にすることができるのでありがたい。また、ケアマネジャーが本人ミーティングにも参加することも検討してもらえればと思う。

○事務局

本人も日頃から関わっている地域包括支援センターやケアマネジャーと一緒に参加の方が、安心して参加して話ができると思う。ぜひ参加してもらいたい。

○委員

様々な取組に本人の声を反映させるということは大切なことだと思う。本人ミーティング等に参加することが難しい方の声を聞く機会が設けられるとより良いと思う。チームオレンジで活動する際に、個人情報の取扱いはどうなるのか。

○事務局

個人情報については、本人に了解を得た上で、チームでルールをつくって活動していただく。

○委員

チームオレンジの活動を進めていくには、市役所内の連携が必要になると思うが、チームオレンジの趣旨や活動内容への理解が得られるような取組ができているのか。

○事務局

市役所の新規採用職員向けに認知症サポーター養成講座を毎年開催している。チームオレンジの一員として活動するにあたっては、不十分な点もあると思われるので、引き続き取り組んでいきたい。

○委員

良い取組だと思うので、市役所全体で進めていってほしい。

3. 閉会